

平成 28 年度カキ養殖概況

石黒貴裕*・村山史康

養殖規模 平成 28 年度のマガキの漁業協同組合別養殖状況を表 1 に示した。全県の経営体数は前年度から 3 経営体減少し、148 経営体であった。筏台数は前年度から 32 台増加し、2,013 台であった。

養殖経過 本年度の牛窓沖海水温の平年偏差の推移を図 1 に示した。5～8 月の間は平年値との差が-0.2～2.1℃の間で変動した。その後、9 月下旬から高く推移し、11 月中旬～12 月下旬の間は平年値より常に 1℃以上高かった。1 月以降は差が縮小し、平年値との差は 0.1～0.9℃であった。

クロロフィル a 量の全漁場 39 定点の平均値は、抑制期(4～9 月)は 6.0 μg/L と、平年(5.2 μg/L)より 0.8 μg/L 高かった。また、養成期(10 月～翌 3 月)では 4.5 μg/L と、平年(3.2 μg/L)より 1.3 μg/L 高かった。

本垂下は 4～5 月下旬の間に、沖出しは 10 月上旬に、生産は 10 月下旬～11 月上旬の間に例年どおり開始された。生産当初は、へい死等の影響のほか、他県における食中毒の発生により消費が低迷し、生産量は低調であった。年明け以降は冷凍向け出荷等により順調に生産が行われた。なお、県西部(寄島町漁協、笠岡市漁協)では、年内の生産を控えたことや種苗数を増やして

いたことから、例年より遅い 5 月末まで生産が続けられた。

生産結果 10～12 月の間の累積生産量は約 888t となり、過去 10 年間で平成 27 年度(約 844t)に次いで少なかった。2 月以降の生産は回復したものの、年間生産量は前年度比 91%の 2,995t となり(表 1)、過去 10 年間で平成 19, 20 年に次いで少なかった。

県が実施したカキ出荷期間中のノロウイルス検査は 140 検体中 4 検体が陽性で、陽性率は 2.9%であった。

その他 県内採苗は日生町、伊里、邑久町、牛窓町漁協で 7 月に始まり、8 月上旬までに予定枚数を確保した。

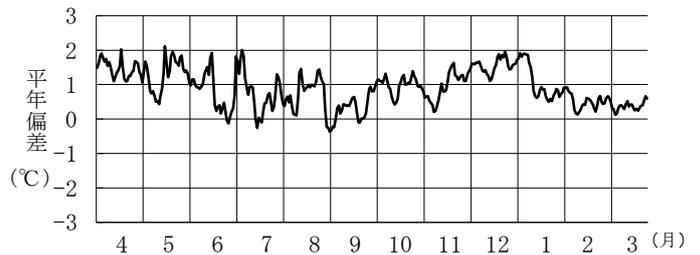


図 1 平成 28 年度の牛窓沖海水温における平年偏差の推移(平年値は 1981～2010 年の平均)

表 1 マガキ養殖状況(平成 28 年度養殖年度)

漁協名	経営体数	筏台数	沖出し時期 (月/日)	生産時期 (月/日)	生産量	
					むき身(t)	対前年度比(%)
日生町	49	466	10/3 - 10/15	10/23 - 3/31	1,121	81
伊里	5	43	9/14 - 9/14	10/27 - 3/27	29	128
邑久町	67	1,285	9/27 - 10/18	10/27 - 4/28	1,552	96
牛窓町	6	111	10/5 - 10/7	10/24 - 3/28	113	68
寄島町	16	82	10/7 - 10/14	11/11 - 5/22	147	145
笠岡市	5	26	9/30 - 10/20	11/19 - 5/27	33	444
合計	148	2,013	9/14 - 10/20	10/23 - 5/27	2,995	91

*岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課